



約850名参加

更生保護制度施行75周年記念  
第38回関東地方更生保護大会  
第69回長野県更生保護大会

令和6年10月25日(金)  
キッセイ文化ホール



第127号  
発行 令和7年3月1日  
松本地区保護司会



あいさつ  
大会顧問  
臥雲義尚松本市長



受付にて  
能登半島災害義援金



講演  
「人生100年時代を生き抜くために」  
ITエバンジェリスト 若宮正子先生  
「60歳から楽しむデジタル学習術」  
老テク研究会事務局長 近藤則子先生



臥雲義尚松本市長表敬訪問  
9月24日(火)  
大会への協力依頼と  
保護活動へのお礼



ホワイエにて物販



# 更生保護大会 受賞者のみなさん おめでとうございます

松本地区関係者は次の通りです。  
(敬称略・順不同)

※関東地方更生保護大会関係  
関東地方更生保護委員会  
委員長表彰  
原 達郎 児玉 行  
滝澤 修 中川 裕子  
百瀬 素浩

関東地方更生保護委員会  
委員長感謝状  
中原 澄子

関東地方保護司連盟会長表彰  
堀内 勝幸 佐藤いづみ  
青木 崇

※長野県更生保護大会関係  
法務大臣表彰  
鎌倉 宏至 宮下 正夫  
小笠原 力男 柳澤 有基子  
全国保護司連盟理事長表彰  
橘 昭雄 百瀬 久子  
長野県知事表彰  
草間 由紀子 二村 俊永  
(BBS会員)  
青木 豊子

長野保護観察所長表彰  
手塚 貴雄 相澤 真由美

長野保護観察所長感謝状  
(BBS会員)  
廣瀬 康貴 高木 章太  
原 茂



長野県保護司会連合会会長表彰  
上條 光司 近藤 正  
小林 資典 櫻井 伸彦  
小林 優 川久保 文良

## 松本地区保護司会 視察研修

十一月一日(金)に二十七名が参加して、静岡へ向かいました。前半は、保護司のもととなる「勸善会(出獄人保護会社)」を創設した金原明善の記念館。明善の孫で館長をしている金原利幸さんに説明をして頂きました。明善は「天竜川の治水」や「植林事業」にも取り組んだ方で、刑を終えた人々の救済活動の話になる前に時間となっていました。参加した皆さんも、残念に思い再度訪れたいと話していました。  
昼食後に向かった静岡刑務所では、「刑務作業」や「職業訓練」を見学しました。



## 荣誉に輝く 秋の叙勲

(敬称略)

◇瑞宝双光章  
更生保護功労  
山本 範行

長年のご活躍に対して受章されました。  
心よりお祝い申し上げます。



大切な自分をもっと信じよう

## 私が抱えた事例 シリーズ (81)

この十年間で、現在進行中も含め、少年二人、成人三人を担当してきました。私が出会った罪を犯した成人の方の心模様を、この機会にまとめてみます。(これは、当然三人に限ったことではありません)

### 面接時対象者の心模様

はじめは、自分を大きく見せる傾向です。聞いてみると「ホントウ?」と思いたくなるような話が、大小あります。これは罪を犯した為でしょうか?

「そうは言っても、オレって昔こんなにすごいこともあったんだぜ!」と大言を語り、立ち位置を確保する姿に思えてなりません。

この傾向は、自分の行いの正当化になっしていきます。大事な点は、自ら罪のふり返りです。そこに至った経過を聞いてみると、  
「ね、滝澤さんわかるでしょ」と何回も言われたら、徐々に、そうせざるを得なかった状況が納得できるようになっていきます。加害者たる本人から一方的に聞くにつけ、いわゆる「情が移る」自分がそこにいます。面

接で「しよく罪指導を」とも言われますが、次第に遠くなっています。少年の場合「発達障害」と診断され、小中学校時代に適切な対応がされていたらと、その特別支援教育にかつて携わっていた者として、別の観点で悔やまれます。

さらに、正統化が「自分のやっていることは、おおむね正しい」とまで言い切ると大変です。その彼から、ある日「〇〇まで来ているが、渋滞で面接に遅れる」とラインがありました。

それから三十分もたつてやって来たので、私は「さっき私がこの面接会場に来る時は同じ場所、混んでいなかったけど、こんなに多かったの?」と言った途端、  
「俺がウソでもついていると思ってるのか!俺を信用できない人とはもう話さない!」と激怒し、出て行ってしまう。私は、様々な理由の遅刻が続いていたので「渋滞情報でごまかしているのか」と勘ぐったのも事実です。

今まで、犯罪を繰り返し、悪く言われてきた結果、こうしたちよつとした行動の疑問や問題の指摘に、彼にはもう耐える力がないのです。彼の事を理解し、あたたかく見守りながら関わっていきたくと思っています。

## 第74回 社会を明るくする運動 長野県作文コンテスト

本作文コンテストは、次代を担う小・中学生の皆さんに、日常生活や学校生活の中で体験したことを基に、犯罪・非行のない地域づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたことを作文に書くことを通じ、本運動に対する理解を深めてもらうことを目的に行われています。

今年は、県内の小・中学生の皆さんから九、一三五点の応募がありました。  
松本地区からは、小学生七二九点、中学生三四八点の応募があり、この内小学生一点と中学生一点が県の優秀賞に選ばれました。ここに、入賞・入選者と優秀賞作品を掲載させて頂きます。

## 県作文コンテスト 入賞・入選者

(松本地区分・敬称略)

◇小学校の部

(県 優秀賞)

芝沢小学校六年 佐藤 晴  
(県 入選)

清水小学校五年 有賀 美晴  
開明小学校六年 奥原 颯太  
寿小学校六年 大重 潤真  
寿小学校六年 町田 莉乃彩  
菅野小学校六年 三村 もも  
島内小学校六年 武井 みなみ  
島内小学校六年 古井 帆梨

◇中学校の部

(県 優秀賞)

菅野中学校二年 長岡 晴  
(県 入選)

丸ノ内中学校三年 奥原 光音  
明善中学校二年 二木 志帆  
松島中学校二年 猪飼 昇汰  
松島中学校二年 新谷 遙花  
梓川中学校三年 中村 結

● 小学校の部

優秀賞

「お互いを

わかりあって」

松本市立芝沢小学校

六年 佐藤 晴

低学年の頃のことです。ぼくは、同じ地区の友達と学校に行ったり、家に一緒に帰ったりすることが出来ませんでした。ぼくが、「今日、一緒に帰ってよ。」と言うと、友達は、「人数制限があるから無理。」

と言って、いつもぼくを仲間外れにして、ヘラヘラ笑っていました。ぼくは、いつも、心の中が暗い闇に閉ざされて、学校に行くことが嫌になっていきました。今までは、お母さんやお父さんがぼくの気持ちを聞いてくれて、なんとかがまんして学校に行くことが出来ていました。けれど、毎日のように学校に行ったり帰ったりするたびに悪口を言われて、だんだんがまんすることが出来なくなっていました。ある日のことです。いつものように、友達は、ぼくに悪口を言ってきました。すると、ぼくは、今までがまんしていたものがあふれかえって、その友達をつねってしまいました。その日は、今までのことがよみがえってきて、がまん出来なくなつて、とうとう手を出してしまいました。手を出しても、ぼくの気持ちはすっきりせず、心がひきさけるように痛くなりました。ぼくがつねつたのを見た友達が、先生を呼んでくれました。先生は、何でもそんなことをしてしまったのか、どんな気持ちだったのかとぼくの気持ちを聞いてくれました。そして、そのことをお母さんに伝えてくれました。家に帰って、お母さんと話しをして、自分がやってはい

けないことをしてしまったんだと思い、すごく反省しました。けれど、先生やお母さんに自分の気持ちを聞いてもらえると、気持ちが少し楽になりました。四年生の冬にぼくは、近くのサッカーチームに入りました。そのサッカーチームには、前に悪口を言ってきた友達がいました。最初は、チームに入っても下手だったので、チームのみんなについていけず、あまり話すことも出来ませんでした。けれど、うまくなるために練習して、みんなに追いつけるようになってきました。そうすると、悪口を言ってきた友達と、一緒にサッカーをしたり、話したりする機会が増えてきました。一緒に活動したり、話したりするうちに、悪口を言ってきた子の今まで知らなかった性格や得意なこと、好きなことなどたくさん知ることが出来ました。逆に、ぼくのこと知ってもらうことが出来て、その友達から声をかけられることが増えてきました。前は仲があまり良くなかった友達と一緒にサッカーをすることが出来るようになりました。

「ナイスゴール。」  
と言ってくれたり、ハイタッチをしたりして一緒に喜んでくれました。他の日の練習でもパス練習にぼくがさうと、「いいよ。やろう。」  
と言って一緒にやってくれるし、ぼくがミスをしたりすると、「ヤバイんじゃない。」  
とお互いに冗談を言いあえるような友達になりました。いつのまにか、心の中の暗い闇など消えて、太陽のようにすごく明るい心が変わっていました。  
このように、お互いのことを知ったり、わかつたりすることで、いじめや非行、犯罪は減らせると思います。そのために、一緒に思い切った活動することとお互いをわかりあうことが出来ると思います。もし、つらい時、苦しい時は、周りの人に話を聞いてもらうことで気持ちが少しでも楽になると思います。これからぼくは、たくさんの人と一緒に活動してお互いのことをわかりあっていきたいし、つらそうな人の話を聞いてあげて、その人の心にもしびれをもてるような人になって、いじめや非行、犯罪のない世の中を作る一員になりたいです。

第74回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

長野県作文 コンテスト

● 中学校の部

優秀賞

犯罪・非行の責任

松本市立菅野中学校

二年 長岡 晴

私は毎日ニュースを見ている。ニュースを見るといろいろな情報が出てくる。その中でよく目にするのは、犯罪・非行という言葉だ。この言葉を聞くと「最低なこと」と思う人もいるだろうけれど私はそうは思わない。そう感じたのは犯罪・非行をした人達について考

えるようになってからだ。  
ある日、いつものようにテレビを見てみると窃盗した犯人が捕まったというニュースを見た。私は近くにいた母に「犯罪をするなんて最低だよ。」と同調を求めた。しかし母は「うん。そうかもしれないけど、犯罪をした人にも何か理由があるんだと思うよ。」と言った。私は何を言われているかよく分からず黙っていると母はつづけて「その人がどういうことを思っているのかも知らないで最低っていうのはよくないんじゃない。」と言った。犯罪をした人の理由ってなんだろうと私は思った。  
後日、私は母に言われたことが気になって犯罪・非行をした人達について調べてみた。こういった人達の犯行理由には「組織での権力争い」「貧困」「ストレス」などのものがあつた。さらに調べると、私たちと同じ位の中高生も同じような理由で犯罪や非行をしていることが分かった。私はこういう人達が罪を犯さないためにはどうすればいいのだろうと考えた。  
犯罪・非行をしてしまう人達が出てきてしまうのは私たちの責任ではないだろうか。例えば自分の目の前に今一番欲しいものが置いてあるとする。それは手を伸ばすと

すぐに届いてしまう距離にあるが、とつてしまうと罪を犯すのと同じことになってしまう。多分「絶対に盗らない。」という人がほとんどだろうが中には悩む人もいると思う。そんなときに「だめだよ。」などと声をかけてくれる人がいれば自分の感情や欲望をおさえることができるだろう。これは今の社会で起きている犯罪や非行についても同じだ。ストレスや恨みがあつて悩んでいる人に声をかけて寄りそってあげることや犯罪や非行は起きないと思う。しかしそうやって悩んでいる人達をつき放して、その人たちが行動に移してしまった後で最低と言ったかたづけから犯罪や非行をしてしまう人達が同じように出てきてしまうのではないだろうか。  
世の中で起きている犯罪・非行というものは私たちにも責任があり、決して関係のないものではない。ニュースやテレビで「窃盗」「殺人」「犯罪」などの言葉を聞いて「自分には関係ない。」と思うのではなく、自分のことのように受けとめて、自分の周りではそういうことが起きないようにすることが大切だ。今、自分の周りでだれにも相談できなくて困っている人がいるかもしれない。それに気づいて知らない

いふりをするのではなく、声をかけて寄りそってあげることが必要だ。たとえそれが中学生や高校生だったとしても、実際に犯罪や非行をしてしまっている人もいるのだから寄りそってあげることが必要である。私は犯罪・非行について考えるようになってから周りの人の変化に気づいて、すぐに声をかけるようにしている。少しでもいつとも違うなと感じる人がいたら自分から話しかけにいっている。「どうしたの。」「なにかあったの。」と声をかけるだけで相手は自分の悩んでいることや考えていることを打ち明けてくれる。話を聞いてあげるだけでも、さっきまで深刻な顔をしていた相手の顔は少しほっとしたような顔になる。その話が犯罪や非行に関係のないことだったとしても一人で重く抱えてしまった罪を犯すことにまで発展してしまうかもしれない。だからそうなる前に、私は悩んでいる人を放っておかないで、寄りそう。前までは何も考えずにいけないことをしてしまった人達を罵るだけだった。だけど今は違う。少しでも一人で苦しんで罪を犯してしまう人を減らしたい。このことが広まれば、犯罪・非行のない社会にできると思う。

# 五者懇談会

九月二十二日(日)に五者(松本地区保護司会・BBS会・更生保護女性会・協力雇用主会・松本保護会)懇談会が、本年度はBBS会の主催により梓水苑で六十一名(内保護司二十一名)が参加して開催されました。

前半は、瀬戸佑一長野保護観察所統括保護観察官による講義等が行われ、後半は皆でバーベキューをして親睦を深めました。



## 松本地区保護司の担当する対象者数

令和7年1月20日現在

| 1号観察 | 15件 | 生活環境調整    |
|------|-----|-----------|
| 2号観察 | 5件  | 少年院在院 3件  |
| 3号観察 | 2件  | 刑務所在監 23件 |
| 4号観察 | 19件 |           |
| 計    | 41件 |           |

1号観察とは、家庭裁判所の決定により、保護観察に付された少年。  
2号観察とは、少年院から仮退院を許された少年。  
3号観察とは、刑務所から仮釈放を許されている人。  
4号観察とは、刑の執行猶予され、保護観察に付された人。

生活環境調整とは、収容中の段階から、その者の改善更生と社会復帰にふさわしい生活環境をあらかじめ整えるための措置を講ずること。



## 保護司の異動

(敬称略・順不同)

### 〈退任〉

令和六年十一月九日付け

草間 由紀子(東分区)

二村 俊永(西分区)

令和七年一月三十一日付け

金子 文彦(北分区)

小林 優(北分区)

宮澤 淳毅(北分区)

長い間大変お疲れさまでした。

### 〈新任〉

令和六年十一月十日付け

近藤 秀祐(西分区)

松森 清昭(西分区)

上條 美智子(南分区)

笠原 幸一(南分区)

漆間 孝(南分区)

中村 丈二(南分区)

末永く宜しく願います。

## 「まつもと保護だより」 松本市ホームページに 掲載

### 掲載場所

トップページ⇒分類でさがす⇒  
くらし・安全⇒防犯・安全⇒安全・  
安心な町づくり⇒社会を明るくする運動⇒まつもと保護だより

## ホゴちゃんの一言

なった。楽しそうに友達が遊んでいる時に練習をしていた。だから今がある。」メジャーリーガーの言葉である。何か一つを極めようとしたら数えきれないほどの我慢と努力をしているという事だ。楽しい時間を犠牲にする事は本当に辛い。しかしその積み重ねが人を強くする。スーパースターにならなくても時に我慢も努力も必要ではないだろうか。▼楽な事ばかりでは本当の楽しい時間は感じられない。満足感や達成感は得られない。どんな今になるか、自分次第である。

パリ五輪の感動は記憶に新しい。厳しい代表選考会を戦い、その中のほんの一握りの選手がオリンピックの舞台に辿り着く。そこまでの道のりは想像を絶する努力と我慢の連続だった筈である。▼「土・日の休みがなくなっていた。いつしか夏休みも冬休みもなくなつた。楽しそうに友達が遊んでいる時に練習をしていた。だから今がある。」メジャーリーガーの言葉である。何か一つを極めようとしたら数えきれないほどの我慢と努力をしているという事だ。楽しい時間を犠牲にする事は本当に辛い。しかしその積み重ねが人を強くする。スーパースターにならなくても時に我慢も努力も必要ではないだろうか。▼楽な事ばかりでは本当の楽しい時間は感じられない。満足感や達成感は得られない。どんな今になるか、自分次第である。